

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場  
 広島県福山市箕沖町64番地  
 TEL : 084-959-6383 ・ FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプ <sup>°</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
	空気量	- %			

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	-		
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-	
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-	
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59	2.64	7.0±2.0
骨材	②	砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63	2.66	7.0±2.0
材	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	-	2.72	0.5±0.5
骨材	②	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(1505)	A 化学法	15～5	6.30	-	2.72	0.5±0.5
材	③	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(4020)	A 化学法	40～20	7.95	-	2.72	0.5±0.5
材	④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形 I 種)			Na <sub>2</sub> O eq %		0.9
混和剤②	製品名	-	種類	-			Na <sub>2</sub> O eq %		-
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na <sub>2</sub> O eq %		-
細骨材の塩化物量		-		%水の種類	上水道水 回収水(上澄み水)	目標スラッジ 固形分率		-	
回収骨材の使用方法		細骨材	-	粗骨材	-	スラッジ 水の使用方法		-	

## 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
276	-	-	160	333	500	-	373	318	370	-	2.62	-	-	
水セメント比		58.0 %		水結合材比			-				細骨材率			44.6 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。  
 J I S 該 当 品

骨材混合比	砕砂：石灰砕砂＝40：60
(容積混合)	砕石2010：1505：4020＝35：30：35

# 配合計算書

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	- %				

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C) m = -13.21 + 25.22 × C/W  

$$W/C = 25.22 \div (30.0 + 13.21) \times 100 = 58.0 \% \leq \text{【60% (上限値)】}$$

∴ W/C = 58.0 %

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 160 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 160 \div 58.0 \times 100 = 276 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 276 \div 3.04 = 91 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.640 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 61.0 %  
 $G_v = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $G1_v = G_v \times 35.0 \% = 137 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G1 = G1_v \times \text{表乾密度} = 137 \times 2.72 = 373 \text{ kg/m}^3$   
 $G2_v = G_v \times 30.0 \% = 117 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G2 = G2_v \times \text{表乾密度} = 117 \times 2.72 = 318 \text{ kg/m}^3$   
 $G3_v = G_v \times 35.0 \% = 136 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G3 = G3_v \times \text{表乾密度} = 136 \times 2.72 = 370 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 686 = 314 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $S1_v = S_v \times 40.0 \% = 126 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $S1 = S1_v \times \text{表乾密度} = 126 \times 2.64 = 333 \text{ kg/m}^3$   
 $S2_v = S_v \times 60.0 \% = 188 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $S2 = S2_v \times \text{表乾密度} = 188 \times 2.66 = 500 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.6 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 276 \times 0.950 \% = 2.62 \text{ kg/m}^3$

### 配 合 表    kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	-	-	160	333	500	-	373	318	370	-	2.62	-	-
水セメント比	58.0 %		細骨材率	44.6 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂=40：60 砕石2010：1505：4020=35：30：35					
備考													

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場  
 広島県福山市箕沖町64番地  
 TEL : 084-959-6383 ・ FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 (夏期修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	— °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	— kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	— 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm
	空気量	— %			

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	—	
混和材①	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> O eq %	—
混和材②	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> O eq %	—
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分 区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup> 絶 乾 表 乾	微粒分量の 範囲%
	細骨材	① 砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59 2.64	7.0±2.0
	骨材	② 砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63 2.66	7.0±2.0
	材	③ —	—	—	—	—	—	—
	粗骨材	① 碎石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	— 2.72	0.5±0.5
		② 碎石	愛媛県今治市大三島町肥海(1505)	A 化学法	15～5	6.30	— 2.72	0.5±0.5
		③ 碎石	愛媛県今治市大三島町肥海(4020)	A 化学法	40～20	7.95	— 2.72	0.5±0.5
	材	④ —	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形 I 種)			Na <sub>2</sub> O eq %	1.0
混和剤②	製品名	—	種類	—			—	—
混和剤③	製品名	—	種類	—			—	—
細骨材の塩化物量		—		%水の種類	上水道水 回収水(上澄み水)	目標スランプ 固形分率	— %	
回収骨材の使用方法		細骨材	—	粗骨材	—	スランプ 水の使用方法	—	

## 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
276	—	—	160	333	500	—	373	318	370	—	3.15	—	—	
水セメント比		58.0 %		水結合材比			— %				細骨材率			44.6 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。  
 J I S 該当品

骨材混合比 (容積混合)	砕砂 : 石灰砕砂 = 40 : 60 砕石 2010 : 1505 : 4020 = 35 : 30 : 35
-----------------	-------------------------------------------------------------

# 配合計算書

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	-				

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C) m = -13.21 + 25.22 × C/W  
 $W/C = 25.22 \div (30.0 + 13.21) \times 100 = 58.0 \% \leq \text{【60\% (上限値)】}$   
∴ W/C = 58.0 %

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 160 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 160 \div 58.0 \times 100 = 276 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 276 \div 3.04 = 91 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.640 m<sup>3</sup>/m<sup>3</sup> 実積率 = 61.0 %  
 $G_v = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $G1v = G_v \times 35.0 \% = 137 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G1 = G1v \times \text{表乾密度} = 137 \times 2.72 = 373 \text{ kg/m}^3$   
 $G2v = G_v \times 30.0 \% = 117 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G2 = G2v \times \text{表乾密度} = 117 \times 2.72 = 318 \text{ kg/m}^3$   
 $G3v = G_v \times 35.0 \% = 136 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $G3 = G3v \times \text{表乾密度} = 136 \times 2.72 = 370 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 686 = 314 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $S1v = S_v \times 40.0 \% = 126 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $S1 = S1v \times \text{表乾密度} = 126 \times 2.64 = 333 \text{ kg/m}^3$   
 $S2v = S_v \times 60.0 \% = 188 \text{ } \ell/\text{m}^3$      $S2 = S2v \times \text{表乾密度} = 188 \times 2.66 = 500 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.6 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 276 \times 1.140 \% = 3.15 \text{ kg/m}^3$

## 配 合 表    kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	-	-	160	333	500	-	373	318	370	-	3.15	-	-
水セメント比	58.0 %		細骨材率	44.6 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂＝40：60 砕石2010：1505：4020＝35：30：35					
備考													

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

合田産業株式会社 福山工場  
 広島県福山市箕沖町64番地  
 TEL : 084-959-6383 ・ FAX : 084-959-6384

配合計画者名 森 康一

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 (冬期修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ <sup>®</sup> 又はスランブ <sup>®</sup> フロー <sup>®</sup> cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量	- cm
空気量	- %				

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	-	
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup> 絶 乾 表 乾	微粒分量の 範囲%
細骨材	①	砕砂	愛媛県今治市大三島町肥海	A 化学法	5以下	2.80	2.59 2.64	7.0±2.0
骨材	②	砕砂(石灰)	大分県津久見市上青江	A モルタルバー法	5以下	2.80	2.63 2.66	7.0±2.0
骨材	③	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(2010)	A 化学法	20～10	7.00	- 2.72	0.5±0.5
骨材	②	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(1505)	A 化学法	15～5	6.30	- 2.72	0.5±0.5
骨材	③	砕石	愛媛県今治市大三島町肥海(4020)	A 化学法	40～20	7.95	- 2.72	0.5±0.5
骨材	④	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形 I 種)			Na <sub>2</sub> O eq %	0.9
混和剤②	製品名	-	種類	-			Na <sub>2</sub> O eq %	-
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na <sub>2</sub> O eq %	-
細骨材の塩化物量	-		%	水の種類	上水道水 回収水(上澄み水)	目標スラッジ 固形分率	-	
回収骨材の使用量	細骨材	-	粗骨材	-	スラッジ 水の使用方法	-		

## 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
276	-	-	160	333	500	-	373	318	370	-	2.10	-	-	
水セメント比			58.0 %	水結合材比			-				細骨材率			44.6 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。  
 J I S 該 当 品

骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂＝40：60 砕石2010：1505：4020＝35：30：35
-----------------	--------------------------------------------

# 配合計算書

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>®</sup> 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	- kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	-		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	-				

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 1.250$$

$$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C) m = -13.21 + 25.22 × C/W  
 $W/C = 25.22 \div (30.0 + 13.21) \times 100 = 58.0 \% \leq \text{【60\%(上限値)]}$   
∴ W/C = 58.0 %

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 160 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 160 \div 58.0 \times 100 = 276 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 276 \div 3.04 = 91 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(6) 空気量(A)  $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ } \ell/\text{m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により  $\text{かさ容積} = 0.640 \text{ m}^3/\text{m}^3$  実積率 = 61.0 %  
 $G_v = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $G_{1v} = G_v \times 35.0 \% = 137 \text{ } \ell/\text{m}^3$   $G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 137 \times 2.72 = 373 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{2v} = G_v \times 30.0 \% = 117 \text{ } \ell/\text{m}^3$   $G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 117 \times 2.72 = 318 \text{ kg/m}^3$   
 $G_{3v} = G_v \times 35.0 \% = 136 \text{ } \ell/\text{m}^3$   $G_3 = G_{3v} \times \text{表乾密度} = 136 \times 2.72 = 370 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 686 = 314 \text{ } \ell/\text{m}^3$   
 $S_{1v} = S_v \times 40.0 \% = 126 \text{ } \ell/\text{m}^3$   $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 126 \times 2.64 = 333 \text{ kg/m}^3$   
 $S_{2v} = S_v \times 60.0 \% = 188 \text{ } \ell/\text{m}^3$   $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 188 \times 2.66 = 500 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a)  $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 44.6 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 276 \times 0.760 \% = 2.10 \text{ kg/m}^3$

### 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	-	-	160	333	500	-	373	318	370	-	2.10	-	-
水セメント比	58.0 %		細骨材率	44.6 %			骨材混合比 (容積混合)	砕砂：石灰砕砂=40：60 砕石2010：1505：4020=35：30：35					
備考													